

第3回寒河江市部活動改革検討委員会 議事録

日時 令和5年9月27日(水)午後3時から午後4時45分
場所 寒河江市立図書館 2階 会議室

(事務局) 会に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。まず次第、資料1 ソフトテニス連盟からの資料、資料2 受け皿を検討している団体において調査として地域クラブ、資料3 中学校部活動改革に関わる児童生徒と保護者と教員のアンケートの結果です。資料4 寒河江市中学校部活動改革ガイドライン案、資料5 カラー刷りのA4となっております。それでは定刻となりましたので、第3回市中学校部活動改革検討委員会を開会いたします。本日はPTA代表と陵東中学校の校長先生が会議に欠席されております。それでは、次第に沿って始めさせていただきます。佐藤教育長よりご挨拶を申し上げます。

(教育長) みなさまこんにちは。まだ日中は暑いのですが、朝晩は大分涼しくなって秋の気配が感じられるいい季節になってきたと思います。本日は第3回の市中学校部活動改革検討委員会となりますけども、お忙しい中、ご参加いただきまして本当にありがとうございます。前回7月に開催しました第2回の会議では、寒河江市の部活動改革ガイドラインについて検討いただきました。今日は引き続きそのガイドラインの内容についてご意見をいただければと思います。また、本日はソフトテニス連盟の方からもご出席いただいております。ソフトテニス連盟では連盟が中心となって中学生が活動できるクラブの設立に向けて、動いてくださっています。この後、その進捗状況や課題等についてもお話いただく予定となっております。また、前回検討いただきましたアンケートの結果も出ております。後ほど詳しく事務局から説明がありますけども、その中で小学校6年生の希望では中学校に入ったら平日は学校で部活動に参加するけども休日は参加しないというのが63%という数字となっております。中学1・2年生の結果でも、同様の答えが56%となっております。寒河江市内では、今年度の入学生から部活動の加入については任意加入としましたが、ほとんどの子供たちが部活動または外部での活動に参加しているという状況であります。休日はやらないで、自分の好きなことをやりたいという子が我々が予想したよりも多いのかと感じているところです。また、保護者の方に関しましても、現在計画している令和7年7月から、中学校では休日に部活動をしないことについて、良いと思うというのが35%。まあいいと思うが、31%となっております。合わせれば66%の方はご理解を示してくださっている状況と読み取れます。

この前の土日に西村山の新人戦が行われ、2日間でほぼ全部の競技を回って状況を見してきました。今年の夏はかなり暑くて、なかなか練習が出来なかったという状況が続いて大変だったというお話もお聞きしました。また、多くの競技で今後のチーム編成に大変不安を持っているとの状況でした。実際に、参加チームの状況を見ると、例えばソフトボールですけども、今回は3チームのリーグ戦ということになっていました。陵東と大江の合同チーム、陵南と河北の合同チーム、そして陵西の3チームということで、陵西も9名ぎりぎりの参加でした。昔は、ソフトボール人口がすごく多くて、一学年に20人ぐらいいたりしたのですが、今そのような状況だということでした。剣道もです。女子は今回から3チームのみということで、そのうち朝日中は3名で参加という状況になっていました。地区総体や新人戦も大きな転換期を迎えているということを実感したところです。そして、そういったことを考えたときに、休日は部活動を行わないとしたときに、合同チームでの大会参加を予定しているところはどんな形で練習していくか、ということも、考えなければならぬことかと思いました。つまり、チームとして出るときに全然練習しないで大会当日に初めて会って出るということは不可能です。かといって、平日にどこかで練習する

というのは、なかなか難しいというようなこともあります。そうした時に、例えば令和8年以降になっても、合同チームの場合は大会前に部活動として土曜日とか、何回か練習する機会を設けなければならないのか、そういったいろんな課題が現実的なものとしてあると思います。市単独では決められないことも多いと思いますので、県の考えとか、県中体連の考えとか、いろいろあると思うので、その辺のすり合わせもますます大事だと思います。そうした状況ですが、我々は、そういった課題とかをあぶり出して、子供たちがスポーツや文化活動をいろいろ選択してやれるような環境を作っていくように進めていきたいと思っています。いろいろご意見、そしていろんな情報を教えていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局) 紹介・報告・質疑応答に移ります。本日は事例の紹介として、寒河江市ソフトテニス連盟を代表して会議に参加していただいております。ソフトテニス連盟として、今後、部活動の受け皿として検討されている。そして、これまでとこれからの動きについてお話をいただきたいと思います。約20分ほどあるかと思いますが、それではよろしくお願いいたします。

(事例発表者) よろしくお願ひします。寒河江市ソフトテニス連盟の事務局をさせていただいております。今日はソフトテニスの関係について、お話をさせていただきたいということでしたので、少しの間、お付き合いお願ひしたいと思います。座って説明させていただきます。6月8日の日ですが、教育委員会の担当の方から、地域移行に関する団体の情報交換会をしてくれということと呼ばれまして、その中でいろいろ情報交換をした経緯がございます。実現可能な団体ということなのか、ソフトテニス、野球、剣道、そしてソフトボールなどの競技関係者が集まって、地域移行の説明を受けたり、今後どういう風になるか、そして、各競技に戻ってどういう地域連携が可能かということで、情報交換をさせていただいた経過がございます。その会議を受けまして、打ち合わせをして、ソフトテニスの方は、まだ具体的に動き出してはいません。具体的には、会長と話をしている程度です。実際、剣道さんあたりは、実際に合同練習とかされているようですけども、ソフトテニスについては、まだ具体的には動き出してはいません。ただ、これまでも市内の中学生を集めて合同で練習会とか、スポーツメーカーであるヨネックスとか、ミズノなど、そちらの方のプロと言いますか、競技に長けたプレイヤーをお願いして、体育館とかチェリーナさがえをお借りして、合同で練習会とかやっていました。そういった意味では比較的イメージしやすいので、地域移行も、比較的他の競技よりはできるのかなと思っております。ソフトテニス競技での、具体的な青写真ですけども、市の連盟が運営の中心になるのかなと思います。具体的には、寒河江市内の3つの中学校を1つの団体としてうけいれるように考えております。陵東中、陵南中は男子と女子それぞれありますけれども、陵西中学校はございません。ただ、連盟としても、小学生対象にスポ少の教室もしていますので、その中には白岩の子とか、陵西学区の子も来ていますので、可能性としては、3つの中学校を一括りで1つの団体となるのかと思っています。月1000円程度を月謝としていただいで、大会とか、いろんなイベントをするときには別途経費はかかってきますが、その時には別途徴収となると思います。あと、練習会場としては、陵東中学校、陵南中学校、市のテニスコート、そしてチェリーナさがえ。具体的には、そこが練習会場になると思っております。その中で、活動を運営していこうと考えております。そう考えた場合、その整備にあたって、市の方にも、ご協力をお願いすることが出てくると思います。お願ひする事項としては、現在、校長先生が申請する場合は、市の施設は無料ですが、そういった受け皿の団体ができた時に、市の施設やチェリーナの施設を使う場合は、無料にさせていただきたいと考えています。市教育委員会の方に要望して、条例を改正し、使いやすくさせていただきたいと思います。また、活動するにあたって3つの中学校を1つの団体で活動していくこととなりますので、当初は受け入れ団体の活動は、休日とかになる流れです

けれども、最終的には平日と休日を、1つの団体で受けるような形になるのかと思います。それを考えた場合、平日の練習については、陵西中学校の生徒は練習会場がありませんので、その会場まで来なきゃならない。交通手段、市内循環バスとか、スクールバスとかありますが、それらを有効に活用していただきたいと考えております。そして、そういった活動をする中で、考えられるような問題点ということで、最初は土曜日だけの合同練習になるのかと思いますが、最終的には、1つの団体で受け入れざるを得ないのかなと思います。そこで、現在の各学校の顧問と保護者会、そして、参加する生徒との連絡やスケジュールをどういう風にするかというのが問題として出てくると思います。あと、教育委員会として、部活動が平日も鑑みた場合、やはり教育活動だということですので、その受け入れ団体の方で、教育活動としてできるのかなというのがあります。部活を通していろいろな人間関係とか、軋轢とかも出てきますので、指導者の問題、その指導者へどういう指導をするか、その方向性をどう教育委員会として出してくるのかなってというのが、その運営団体とその教育とのつながりが出てくるのかなと思います。それと今の件と関連するのですが、受け入れ団体で指導者に求められる資質として、研修とかも出てくると思いますし、それに対して、教育という立場から、どのようなことが出てくるのかということが考えられると思います。あと現時点で、各学校で保護者会とか、連絡網、会費徴収、現金の流れ、そして連絡する時の事務局ということが、各学校でこれまでもあったと思いますが、これが1つになるということで。事務局も子どもと接する学校の方に事務局があったらいいなと思います。けれど、その連絡網、そして、その会費、現金の流れ、事務局の所在、それがソフトテニスだけでなく、いろんな競技から出てくると思いますので。職員ということで出てくるのかなと思っておりますけれども、そこをどうされるのかなと思っております。先ほども申し上げましたように、休みだけでなく、平日の指導ということもあると思います。その中で指導者を確保できるのかというのが出てくると思います。将来的な問題にはなってくるとは思いますが、指導者の確保で、適材が配置できるかということで、ある程度長いスパンで考えられるように、地元の人でその競技に携わっている人ということで確保できるのかというのは、問題になってくると思います。現在、指導されている顧問の先生というのは、移動対象の先生がいらっしゃると思います。ですから、一生懸命だった先生が受け入れの団体でも関与していただくことになっても、何年か後にいきなりいなくなるということも考えられますので、テニスとしてはそこを考えると、地元でテニス一生懸命できるような先生がいてほしいと考えております。また、受け入れ団体と中体連、新人戦と中体連からつながる大きな大会、全中あたりまで、それに加盟するのか、システムを考えていらっしゃると思います。そちらの準備はどうなっているのか、事務局との連絡調整をどのようにスケジュールとかを管理していくのかというのが問題点として出てくると思っております。今後、現時点で考えられる、制度設計上の課題ということで、個人的にイメージとして考えているのが、山形のサッカーのスポーツクラブとか、部活動はスポーツだけでなく、部活動も関与してきますので、塾とか部活動のその活動サークル、そして、その競技なりの専門的になってくると、学習塾みたいな形態になってくるのかと思っております。地域移行となった場合ですね。イメージとして思うのが、高校あたりの専門に競技で監督をしていらっしゃる方もいらっしゃいますが、競技ごとにその専門の競技者を小さい頃から育成してですね。それで生きていくような団体といいますか、システムになるのかと個人的にイメージしているのですが。そういったことになった時にソフトランディングできるように、想定してソフトテニスを考えていきたいと思っております。

別の問題になりますけれども、今回その陵東中、陵南中、陵西中学校は部活動の競技がないけれども受け入れるっていうのはしますけれども、ある意味、そのシステムがうまくいった時に、例えば大江中ですと女子テニスしかなく、朝日中は男子ソフトテニスということで、1つのところしかないです。他の所でお聞きしますと、その中学ではなく、うちで立ち上げたクラブなどの方に是非入りたい、指導を受けたいという子供も出てくる可

能性があります。その場合、どうなるのか、教育委員会の方とも絡んでくると思いますが、その問題が出てくると思いますが。先ほども言いましたけれども、高校を選択する上で、やはり、全国大会とかインターハイに行きたいということで、その競技で高校を選ぶ子供もいるわけですね。そういった場合、インターハイは今のところ話しが無いようですので、その前段階で中学校の部活を捉えている親も、本人もいらっしゃるのかなと思います。その連携というか、そういった子供たちをどのように扱うかというのは、問題として出てくると思いますが。あと、問題としては、土日や休みの時の活動と平日の活動の連携ということで、実際にその生徒のいる学校がどこまで関わってくるのかというのが出てくるのかと思います。考えられるのは、こういったことですが、この検討委員会でもぜひ検討いただきたいと思います。それぞれ教育委員会、あと受け入れ団体とか、そういった役割が全然違うところがあるものですから、本当に大切なのは、やっぱり中学生の子供がどういうふうに成長していくか、それを地域でどのように支えていくかというのが、やっぱり一番大切だと思いますので、そこを踏まえてご検討いただければなと思った次第です。以上でございます。

(事務局) どうもありがとうございました。せっかくの機会ですので、何かご質問をお持ちの方いらっしゃいますか。

(委員) 集まっているのがソフトテニスと野球と剣道、ソフトボールだったと思います。なぜこの4競技が選ばれて集まったのか、その背景には、私は、競技団体がもっと部活動に対して積極的に関わるべきだと思っています。自分の競技を普及したり、競技力向上をあげていく一番の根っこにあるのは競技団体でしょう。競技団体がそれぞれどうやったら普及していけるかっていうことをもっと考えていかなきゃいけない。スポーツ協会に加盟する各競技団体がもっと本気になって考えていただきたい。いろんな問題はこれから派生してくるわけですから、細かいことまで将来のことは、いまここで論じても難しい問題があると思います。こういう場合、当然スポ少との関わりの当然出てくるわけで、深い問題がやっぱりいろいろ出てくると思いますが。

(事務局) ありがとうございます。今日4の協議の(2)でその話題になるかと思っておりますので、後ほどお伺いさせていただきます。

(教育長) 今回の件については、私も剣道に関わっていて、今回の剣道連盟の動きについてお話しします。剣道連盟として剣道人口を増やしたいとか、維持していきたいとか、あと剣道連盟に入っている人たちも平均年齢も60何歳ぐらいなのです。若い人もやってきた人はいるのですが、なかなか連盟には入らない。だから、そういう人も巻き込んで、中学生に土曜日剣道したい子がいたら一緒に練習していこうということです。だから、剣道競技の今後の持続とか、春の剣道連盟の総会の時から検討しているので、会長にも相談して、剣道連盟としてそうした動きをしたいということでどうでしょうかと連盟の方にも了解を得ました。あんまり大きいままだと動きにくいので、市剣道連盟の中に部活動改革の推進部会のようなものを作り、実際にやってみようということで、9月から月1回、陵南中、陵東中の子たちで合同練習会をしながらやっていく状況で始めているところです。

(委員) 競技団体がそうやって動いていけば充実したものになるのではないかという思いがあるものですから。

(委員) すみません。確認させてください。この資料1の2枚目の資料についてです。

(事務局) その資料は4協議の(2)で議題になるかと思えます。

(教育長) ほかにいらっしゃいますか。それでは、どうぞ。

(委員) ソフトテニス連盟の指導者は今どのぐらいの人がいますか。

(事例発表者) 具体的には、まだ組織として動いてないので、指導者がいないのですが、指導できる人は数人です。私も指導できますが、今行っていないです。もし組織ができたときには、私も行かなきゃとは思っています。各中学校で、外部コーチということで、実際指導されている方はいます。ソフトテニスをしたい大人は何人かいらっしゃいます。で、その人たちは今、スポ少の方も指導いただいていますので、そういった方も含めて、新しいその組織の中で指導者ということでお願いできればなと考えております。

(教育長) ありがとうございます。

(事務局) 発表者様のお話は、協議題の(2)で色々関わってくると思えますので、そこでまたお話いただければと思います。それでは、発表者様に拍手をお願いします。引き続きこの部屋にお残りいただいて、お話を聞いていただく形になります。

では続いて部活動改革に関わるアンケートの方について報告をさせていただきます。では資料3の方をご覧ください。以前紹介させていただいたのは、教員を対象としたアンケートでした。今回は小学6年児童、中学1~2年生の生徒、あとはその保護者を対象としたアンケートデータです。では、1枚目からお話をさせていただきます。対象者数回答率、実施期間はそれぞれの一番初めのところに書いてありますので、そこは読みません。

児童用の設問1、部活に入りたいかという質問に対して、約半数54%が入りたい。そして4の地域クラブ活動、地域クラブで活動をしたいという子を合わせると、約67%が何らかの活動をしたいというふうに現時点で書いております。続いて設問2です。平日は部活動をするが、休日は参加しないと答えた児童は約63%。一番下の平日も休日も参加しないと回答している児童と合わせると約75%が休日は参加しないとというふうに考えております。設問3です。地域クラブに参加したい目的では、体力や技術の向上が一番多く、二番目は大会コンクール等で良い成績を取ることとなっております。設問4についてはご覧ください。続いて設問5です。種目数がいっぱい書いてあるところです。休日に参加したいクラブを選ぶ設問です。5のバスケットボール。これが48人です。続いて10のバドミントン。33のパソコンこれらの種目が人気の高い種目です。続いて、バレーボール、美術、陸上、サッカー、軟式テニスといった種目の人気が高いです。では、自由記述の設問6です。ここについては心配事を書いてありますが、人間関係や練習内容についての不安が多く書かれていると読み取りました。

続いて、生徒のアンケート結果です。設問1 中学校での部活動参加の形は、平日は学校で部活動し、休日は参加しない生徒は約56%、平日も休日も参加しない生徒を合わせると約66%が休日には、参加しないと答えています。設問2、地域クラブに参加したい目的については、児童と同様、体力技術の向上が1番、2番は大会・コンクール等で良い成績をとることでした。設問3はご覧ください。設問4、休日に参加したいクラブについては、10.バドミントン、5.バスケットボール、卓球、バレー、軟式テニスが続きます。文化部系では、37.楽器、32.吹奏楽、34.美術という順となっております。設問5の心配なことについての自由記述では、熱中症への心配が多かったです。その他、人間関係、技術の遅れ、けがなどが心配事項としてあがっています。

続いて保護者のアンケート結果です。設問2 休日に部活動をしないうちについて、いいと思う、まあいいと思うは、併せて約66%。あまりよくない、反対は約24%となっております。設問4 平日の地域クラブにどのように参加させたいかとの問いには、仲間と協力、

チームワークが約64%で、次に多かったのが友達と楽しく活動してほしい約49%でした。児童・生徒とは、違う視点で部活動を捉えていらっしゃると思います。設問5はご覧ください。設問6月謝の金額について、1000円～3000円が約41%、3000円～5000円が30%でした。また、設問7、地域クラブでの心配事については、送迎については、約61%、続いて費用については、約31%でした。設問8、保護者がさせたいクラブは、バスケ、バドミントン、バレエ、サッカーが上位です。文化部に関しては、美術、ストリートダンス、パソコン、楽器などの人気が高いです。設問9として、部活動改革についての自由意見を載せてあります。賛成と思われる記述をご紹介します。○をつけてください。40、42、54、62、反対と思われる意見には△をつけてください。14、25、66、98、114、153。中間や要望と思われる意見には米印をつけてください。83、135、136、171、176以上が主だったコメントです。以上が部活動改革に関わるアンケート結果についての説明です。部活動改革のアンケートについては、協議の中で関わる人が多いので、後ほどそこに絡めてお話ししていたきたいと思います。では、以上で、3の紹介・報告・質疑応答を終わります。

続いて協議に移ります。座長を教育長にお願いいたします。それではよろしくお願い致します。

(教育長) さっそく議事に入ります。(1) 寒河江市における部活動改革のガイドライン②について事務局により説明をお願いします

(事務局) では、資料4をごらんください。前回もすごく丁寧に皆さんにお話をさせていただきました。今回、また見直しが多かったのですが、その見直しのところについて説明をさせていただきます。では、表紙をめくっていただいて、前回の修正を赤字で修正しております。今回の修正も赤字ですが、さらに吹き出し米印がついた部分が今回の修正となっております。1ページ目の項目部分です。2ページ令和7年9月を令和7年7月と変更しております。5ページ検討組織を教育委員会と変更しています。6ページ目、ここは多いです。移行や地域移行という言葉を全体的に変えました。(キ)「部員不足」は、部員に限定するわけではないので「希望する生徒数」に修正しています。地域クラブ「に依頼する」を「把握する」に修正しています。保護者会を消していたところを、元に戻しました。7ページの(サ)「部活動の地域移行」を休日の地域クラブ活動等へ修正しています。8ページも同様の修正です。移行や地域移行を修正しています。9ページ(2)(ク)は、「に準拠する」を「踏まえる」に変更しております。また、下の図の所、紅花市としていたところが寒河江市に、A中が○中に、B中が△中になっております。10ページ、A市を寒河江市に変更しております。こちらも移行や地域移行を修正しています。2(ア)令和7年9月を令和7年7月に変更しております。

11ページ、「部活動改革に関するガイドラインの作成・周知」を追記しました。市町村の表記で町村を消しました。12ページ、「則って」を「踏まえて」に変更しました。13ページも同様です。14ページも同様です。14ページの下、連携の相互矢印を追加しました。16ページ(2)(イ)「教育委員会は、指導者研修会を開催し、地域クラブでの指導を希望する指導者については、研修を受講したのち、寒河江市地域クラブ指導者資格として認定し、地域クラブの指導に携われるように検討していく」と追記しました。18ページ、「7クラブの情報、新たに受け皿となった地域クラブは、その情報を生徒や保護者に開示し、広報にも努める。教育委員会は、受け皿となった地域クラブの情報が、校内で生徒や保護者に伝わるようその情報を常に見ることができる場所に設置するよう依頼する。」と追記しました。また、19ページには地域クラブの情報用紙を掲載しました。この情報用紙は教育委員会と学校の資料とするということで、外には出さない形でいきます。先ほどありました、7生徒や保護者が見るものは、地域クラブ等の募集チラシを見ていただく形にして、それを各クラブが別で作成し、体育館に置くということを想定しております。20ページです。中段「則った」を「踏まえた」に、「行政の補助」を消しました。下段、米印部分を

追記しました。最後 21 ページ中段上部分を消しました。ホームページアドレスを変更しました。修正は以上です。

(教育長) 只今、事務局より説明がありました。変更点で、例えば 6 ページがすごく多いのは、部活動の地域移行というような形で、県のガイドラインがまず書いてあったので、基本部活動を地域で引き受けてもらうわけではないという事をこれまでも確認してきたところです。つまり、土曜日とか日曜日やるのは、部活動ではないという基本線が、なかなか分かりづらい部分があったので、その辺を直しています。あと部活動ガイドラインに則ったという部分を踏まえたとしたのは、この前の会議で部活動ガイドラインだと、休日は 3 時間程度とか、時間の縛りを割と今は厳しくしているので、クラブを自分で選択して参加する時には、子どもたちの疲労度とか、いろんなことも考慮はするのですが、やっぱり時間での制限をつけると、活動がうまくいかないのではないかというご意見があって、その辺でそこを直しています。あとは指導者の問題として、教育委員会としても指導にあたる方については、暴言であったり、体罰であったり、そういったことがないように研修会を市教育委員会として開いて、指導者の方にもぜひそういった研修会に参加いただきたいというようなことをお話ししたいというようなことなどを入れたことでございます。いかがでしょうか。

(委員) 質問です。2 ページに関連して計画ですね。それと今日の資料 5 のクラブ活動に対して整備事業の資料を初めて見せていただきましたけれども、この整備事業は、政府は 4 億 2000 万か、かなりの予算がスポーツ庁からでてるわけですね。ということは、これは当然、地方にも来るだろうと思えますけども、残念ながら私の手元に持っている資料には、県内では 35 市町村のうち、23 市町しかこの整備事業を取り組むと言っていないのですね。その中で寒河江市は入っていないわけです。その辺の計画はどうなのかな。この辺だと西川町なんかは入っています。多分 23 市町だったと思います。

(教育長) 事務局どうですか。

(事務局) 今、委員がおっしゃられたのは、多分、今年度分の予算で希望したところです。我々は今年度、希望出来なかったのが、来年度は希望するという事です。どういふふうに希望していくかということで、国からまず県にお金がおりて、県から市という形です。9 月下旬に県の方から希望調査のアンケートが来ます。それで総額どれぐらいかということをお県で把握していくようです。

(委員) わかりました。やっぱりこの整備事業とかをやっていないと、はじめから整備事業に入っていないいろいろまだ問題点がでます。なぜかという、私が担当している総合型地域スポーツクラブも準備期間は 2 年以上あったわけです。他の市町村は、ほとんどはいわゆるプレ開催をしているのです。それから本番に入るのです。寒河江市は全然プレ開催をしなくて、平成 18 年に入っちゃってということで、何も無いまま開催をしているわけですね。研修会では、当時の講師の方から補助金返したらいいのではないですか、とまで言われました。そういうこともあるので、ぜひそういう計画があるのなら、やったほうがいいのではないかという意味です。

(教育長) ありがとうございます。この会でも、コーディネーターの配置が大事じゃないかというお話もあって、来年度そのコーディネーターの配置に向けて手を挙げて、予算確保していきたいと、事務局としては検討しているところです。

(教育長) 他にいかがでしょうか？ お願いします。

(委員) クラブの情報用紙という項目になるのですが、保護者さんも目につくようなところで開示してくださるといことなのでクラブの保護者会についてあるなしとか、あとある場合、保護者会はどういった活動をしているのかという情報があると保護者としては、ありがたいと思います。

(教育長) 事務局いかがですか？

(事務局) ありがとうございます。今回のアンケートの中でも、正におっしゃるところ、保護者会があるかないかで参加の形は変わってくるというコメントもありましたので、そのところも盛り込んでいき、次回また提示したいと思いますのでよろしく願います。

(教育長) よろしいですか？ありがとうございます。他にいかがでしょうか。願います。

(委員) いろんな箇所ですてくるもので、前提として前回の説明にあったかもしれませんが、受け皿の定義ってなんでしたっけ？

(事務局) 受け皿の定義。

(委員) 個人的な考え方じゃなくて、ガイドラインには、そういったことは示されていないのでしたか。要領的な内容として。

(事務局) 受け皿としての注釈は載せてないので。

(委員) 受け皿というこの団体は何なのか。受け皿を検討している団体とか、誰が検討しているのか。これは決まったのかって。今疑問に思っているところです。

(事務局) 活動している子どもたちが、休日も同じような活動ができる。そういったこちらの趣旨に賛同してくださる団体というところで考えております。

(委員) 振り返ってみればスポーツ協会に関連して団体って全部ではないのですか。なぜかという、アンケート見て、びっくりしたところもありますけど、幅広い種目っていうかね。小学生、中学生、保護者からアンケート取っておいて、これを全部やろうと思っているかどうかは別にして。これは結局、寒河江市のスポーツ協会にほぼ加盟しているものですよ。

(委員) ただいまね。この加盟してない新しい種目、いわゆるオリンピック種目に出てくるスケートボードとかボルダリングとか、そういうふうなものについては、スポーツ協会に加盟してないはず。まだ、普及の段階ですから。ただ、市としても普及していこうという体制はあるものから、そういう点で子供たちも興味があって入ってくる子供たちもいるだろうということは予想されますね。

(委員) 根底には、アンケートを見て少しびっくりしました。休みの日まであまりやりたくないという回答が2/3ぐらいなっていて。ただ競技力をあげたいという回答が60%あったと思いました。保護者では、人間関係なり、調整力の向上を望みたいという回答が2/3を占めている。やっぱりアンバランスになっている。恐らく、まだ子供にとっては成長段

階だから、あんまりそこまで考えてないと思いますが、これ課題だなと思って見ていました。例えばスポ少ですと、このスポーツに対する定義がまた違って、中学校になるとまさに競技力の向上となる。その辺のやっぱり違いも出ているというのがこのアンケートだと思います。これ見てしまったら難しい。結構簡単に考えていたのだけど、こういう結果なのでびっくりしたところがあります。

(教育長) 委員が感じられた難しいというのは、競技力向上で頑張ろうと思っている子どもたちが少ないということですか。

(委員) そう思いました。一方で、この会合というのは、競技者を増やしていこうという意図でしたか。とりあえず中学校だけの中学校の生徒だけに限定して、何をやるのだったのかなと思えてきて。このアンケートをみたら、素晴らしい結果がでたなと思います。

(事務局) 方針としては、休日の生徒の活動場所を確保していく。そのために皆さんにお集まりいただいて、様々な手立てでそういった団体を増やしていくという目的です。

(委員) それを希望している子が、少ないと感じました。私も同じですけど、保護者のアンケート内容と子どもたちのアンケート内容との違いが読み取れるわけです。これは単純に生徒の変化なのだろうと。我々の時代が考えていたようなことと、我々が現役での頃とまた違って。そういうのをこのアンケートの結果から読み取れたと思えます。反面、愕然としたという面もあり、実際問題として、それが今の子どもたちの現実なのだろう。極端に言うと、部活動の意義というのは誰がどこで教えるのかということも言いたくなるぐらいです。そういうアンケートの内容だと思っています。スッと私は受け入れます。

(事例発表者) 先ほどのアンケートの結果を聞いた時に思ったのは、6年生を対象にしたアンケートということと、あと保護者を対象にしたということだったのですが、他の学年もありますけれども、6年生だと部活動の実態を経験していないということもあるのかなと、その質問文がどういうものなのかということで、休日は小学生は部活動をしてない子がだいたいいるので、そこのところはわからないから、そういう回答になる可能性もあるのかなと、個人的に思いました。あと、始めてから強くなりたいたいというのだったら、土日もやりたいという子も出てくると思うし、アンケートは固定的に考える必要はないと思います。ただ、出た結果については一つの指標にはなりますので、それはそれでいいと思います。これまでは限られた責任、顧問の先生の責任のなかで部活動は成り立っていたと思いますが、いろんなものをやりたいという子供はいるので、それを地域で受け入れられるかどうかということで、団体の方で考えなければならない問題だと思います。テニスは、1つの団体で可能かなと思っているのですが、野球などは指導者もいっぱいいます。寒河江だとたくさん受け入れ団体が出てきて、もめることもあるのかな。あと私、書道もやっています。この機会だから、自分の分野について子供と接する機会、ある意味チャンスの機会になると思うし、いろいろやりようだと思います。そのところにどういう風に整備していくかというのは、本当に揉めてくると思うのですが、寒河江市として、どういう方向にするのかというのは教育委員会の方大変だと思います。

(室長) 競技力の向上と、これから競技人口の拡大ということも視野にありますが、その前に中学校で今、休日部活をやっているものですから、そこで部活動しないとなれば、その休日に子どもたちが何か活動したい時に、活動できる場所を作っていかなきゃいけないだろうというのが最初の段階なのです。お話があったとおり、もちろん既存の部活動にある種目だけでなく、今、子供たちがやってないようなことも、もしかしたらやりたいことがもっとたくさんあるかもしれません。その可能性もここで広げたいという願いもあ

て、中学生が例えば休日に書道教室に行っていない実態が今あるとしたら、休日に部活をしなくなったら、新たな選択肢も生まれるという可能性が広がるようにもしていきたいとねらっています。なので、例えば複合的なクラブができてもいいし、あるいは得意な種目で起こしたいというクラブができてもいいし、子供たちが活動できる場をまずは作っていきたくて考えています。

(教育長) 子どもたちの立場からすると、今、室長からあったように、やりたいことをやる環境を作ってあげたい。つまり、例えば平日は学校でバスケするけども、ずっと小学校から書道をしていたので、休みの日には書道を習いたいとか。これは、休みの日も部活があるということで、今までなかなかできなかったわけです。また、バスケをもっと上手になりたいから、休日もバスケに入るとか。あとこちらの主催団体からすると、さっきあったように、そういったことで文化活動なりいろんな競技なりで若い中学生とか、指導者も一緒になって、ずっと続けていけるような生涯スポーツ・生涯文化活動みたいな形でうまく方向性があるていくような、マッチングできるような環境や場を作りたいというところが基本にあるのだと思います。だから、委員がおっしゃるようにもう少し休日に関心のある活動したいと思う子がいるのかなと思ったのですが、休日は参加しないという子が予想以上に多いと思いました。

(教育長) 委員、いかがですか。中学生を毎日見ている中で、この結果について。

(委員) 今年から寒河江市が任意加入を実施して、本中学校の規模からすれば、未加入の生徒は割合的には、今年は少なかったと思います。ただこのアンケートを見ると、来年も同じとは限らないだろうなと思います。実際、土日はやりたくないという子どもたちが平日の部活動をどう選んでくるかという時に、もう土日をしないことを前提として、学校の部活動も選ばなかったら、来年の本中学の部活動は成立しなくなるところがもっと増えるのだろうという感じがします。大きなところで、野球、ソフト、サッカーなどは、もう部活動の存続の危機です。かろうじて5、6人でできるバレー、バスケ、卓球あたりは大丈夫なのですが、今年の大会を見ても、他の学校はもう単独学年でチームが作れない学校が数ヶ所という状況です。ですから、多分、本中学校の規模でさえ、もう単独で部活動の成立は難しい時代が、来年あたりから始まるのではないかなという気が、このアンケート結果を見て感じたところでした。それが1点です。さっき保護者と子供たちの思いのギャップをおっしゃっていましたが、これを感じるがありました。新チームの新体制になって保護者代表者会というのがあって、これからの部活の動きというのを説明した時に、大人たちの思いというか、自分たちが育ててもらった部活動で、こう心育ててもらったという思いが非常に強く出ていまして、そういうのを育ててくれる場がなくなってしまうのですか？という。中学校から部活動が離れれば、それがなくなるのではないかということが一番心配されているっていうのは、すごくひしひしと感じました。

(教育長) 特に代表になっている方は、ご自分も、学生時代すごく頑張られた方がなる確率が高いと思います。ただ、そこは平日もしないとか、何年先かはわかりませんが、すぐ平日もしないということではないのでね。平日は平日としてあるけども、それを今の話だとう選ぶ子供たちが減るのではないかという感じですね。

(委員) このアンケート通りだとすれば、多分相当来年は減るのではないかと思います。

(委員) やっぱこれを考えた時にスポ少は、昭和30年の後半に出て、いわゆる結成率、大体24~25%変わってないですよ。子どもたちは減少したから、加入率を上げるように頑張っていると思ったら全然上がらないから、現実としてスポーツをする人がだんだ

ん少なくなっている。それはそのまま部活動に繋がっているという感覚です。

(教育長) 大きな学校でさえそういう状況であれば、本当は他の学校も同様な、それ以上で、なかなか例えば地区の総体とか新人戦そのものの開催がどうなるかというところも現実的な課題かなと感じるところです。

(教育長) それでは他に。ガイドラインについては、また次回もお話させていただいて、ご意見をいただきますので、まずはここまでにしておきまして、次にさっき受け皿というのがどうなのかということもありましたけど、その団体の立ち上げについてっていうところで、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料2をご覧ください。本日市ソフトテニス連盟さんより立ち上げまでの動きについての説明をいただきました。現在、他にも先ほどありましたように、市剣道連盟、ソフトボールスポーツ少年団、市内中学校野球部顧問と野球連盟が受け皿を作ろうということで動いていらっしゃる。そういった団体が互いに連携できるように、6月に情報交換会、そして10月来週もその情報交換会を開催する予定です。ここにもう少し団体が加わる予定であります。で、今回のこういった4つの団体につきましては、それぞれ競技の指導者の方が教育委員会に相談したり、こちらの方からどうですかと声掛けをしてあがった団体です。ですので、他にもこういうことを考えている団体があれば、どんどん巻き込みたいと考えているところです。また、表の2の下は、現在わかっている範囲での市内の中学校の生徒が活動している地域クラブということで載せております。人数や所在地がどこまでは載せていないのですが、また文化団体の方はここに入っていないので、文化団体を入れるともっと増えるとは思いますが。今後、こちらの方の表も、充実させていきたいと思えます。それで今回、こういった受け皿を検討する団体をどう増やしていくか。それには、我々が考えるには、本日集まっていられる皆さんが属されているような社会体育団体や社会教育団体、民間団体が主体となって、今、何ができるか、これからどんなことができるかということをお話していただきたいなと考えております。情報提供という形でも構いませんので、受け皿となる団体をどう増やしていくかについてご意見をいただけたらと思えます。宜しくお願い致します。

(教育長) それでは、先ほどの受け皿の定義というところにも関わりますが、中学生を、例えば土曜日、活動をできるような形でうちの団体では、受け入れますよというような、そういう団体ということですよ。まずはね。将来的には、それがその平日の方にも行くのかもしれませんが、まずは現段階では土曜日または日曜日の活動を受け入れますよというふうな団体ということですよ、いかがでしょうか？

(委員) 事務局へのお願いです。この表にやなぎスポ少とか、ボンクラーズとかをすぐ入れてほしいです。あそこが一番の寒河江市の一番の中学生を受け入れてやっている団体だから。複合というところがまさにそうで、昔からやっているこの2団体なので。スポーツ少年団各団があります。その団体は、今25団体あるわけだけど。もう受け皿ってこだわっているわけじゃないけど、受け皿になっていただけますかという言葉が誰かにかけたことありましたか。

(事務局) それをスポーツ少年団の本部の方から問い合わせをいただいて、次回の12月の時に。

(委員) そうですよ。ここで、この資料2で何を話されるのかなと思って、聞いています。来週うちも役員会をします。そして、12月の研修会のあり方、こういう中身につい

てどうですかということで。そういう話だといいいのですかね。ここで何しゃべったらいいのかなと思ったけど、確認だけですか、この資料2は。

(事務局) 資料2 自体に関しては、特に意味を持っているわけではなく、今こういう形で、こちらとして把握していますよという資料として認識していただければと思います。

(委員) じゃあ後で言おうとした、さっきの12月に研修会、毎年、保護者の方、大体50人から70人くらいしか集まらないのですが、コロナ明けて、去年少なかったかな、50人くらいしか来なかったから。そういう研修会に、事務局として、こういう提案してもらえませんかとか。そういうこともあるとかえってやりやすいのかなど。こういう会議も、ある種、有意義なものするにはと思っています。

(教育長) 例えば、各スポーツ少年団長殿みたいな感じで、こう文章をこちらのほうから出して、こういうふうなことで、こんな、地域クラブを寒河江市としては増やしていきたいのですが、協力いただけませんかでしょうか。みたいな文章を出して。

(委員) いや、協力というか、実は、皆さんイメージないかもしれませんが、年に1回保護者全員対象にして、大体半日、午後2時くらいから5時くらいまで、前は、懇親会とかやっていましたが、集まってるんな、例えば、食育なんかについてのこと、スポーツドクター呼んで研修会したり、あとは暴力的な話があった時なんか分科会を設けて、集まった人もフリーでね。それでいろんなやり方しています。だから私、イメージしたのは、そういうところにこういうことを今回はやりたいので、やると言えば、おそらくこれ保護者もっと集まると思います。普通なんかよりだって6年生の親ばかりじゃなくて、みんな興味あるだろうねっていうね。小学生の親は。その辺の別に一回そういう中身、事務局さん話ませんか？ぜひ来週水曜日、役員会します。その時、概略決めたいので、その日で全て決定するわけじゃないけど。だとさっきのアンケートとってもいいなと思って、こういう本人たちとね、子供は違うよ。子供と親も違うし、すいません。

(事務局) 来週水曜日はすみません。

(委員) だからさせていただいて、私のほうから役員の方にもほら、こういう今話もあるものですからって経過報告して、再度役員会開きますので。

(教育長) じゃあその辺は打ち合わせをやらせてもらいますので。是非、そういう機会はこちらから説明する会があって、本当にありがたい限りです。

(委員) 同じことを私が言ったのですが、今スポ少の話に出ていましたけども、スポ少は小学生に限るわけではないわけですね。団員はね、18歳まで加入が可能なわけですよ。当然、リーダー養成も含めた少年団の活動しているわけですから。それを少年団だから小学校で終わりという捉え方を、それぞれの団でやりすぎてないかと逆に小学後卒業だというふうだね。そうでなくて、基本はそうなのですが、と言ってもなかなか現実には、うまくいかないわけです。同じようなことを今日言ったみたいに、もっとやっていただいた方がいいじゃないか。同じようなことをね。少年団の説明というようなことと同じように、競技団体、今4つさらに模索しているということですけども、これを増やして行って、どのくらい競技団体が考えているかということ、余計な話だけど、実は先日、県のスポーツ協会の事務局長とあった時に、部活動の問題で競技団体をもっと説得せねば、なんて言ったりもしたので、いや、その通りだと話もしました。その辺のことを考えると、やっぱりもっと網を広げて、やってもいいのではないかっていうことをさっき言いたかった以上で

す。

(教育長) ありがとうございます。文化関係の団体に関してはどんな感じでしょうか。

(委員) 去年までのこの会議で芸文協の取り組みなどもご紹介した経過があります。いつでも受け入れは、オッケーです。

(委員) 文化系の話題になったのでよろしいでしょうか。芸文協に加入している団体の方が受け皿となってくれるのは本当にありえるだろうなと思っているのですが、一つ中学校で今一番抱えている問題が吹奏楽です。寒河江市には、吹奏楽の団体があるわけですが、夜に大人がやっていますが、子供たちがそこに行くにしても楽器がない。楽器はそれぞれの中学校にある。そういうことを考える時、吹奏楽の受け皿が全くこうイメージできなくて。他の運動部以上に吹奏楽の子供たちの活動の場っていうのが作れないのではないかっていうのが気になっているのですが、何か吹奏楽のいいアイデアって皆さん、こんな方法だったらっていうのをごさいませんでしょうか。

(教育長) 今この部活の改革に関わってこう全国的なニュース見ているとやっぱり吹奏楽がとても難しいというのは、どこの県でも出ているみたいですよ。子どもたちだけいけばいいじゃなくて、大きい楽器とかがなかなか運べないという。じゃあどこかに置いとけばいいかっていうと、それじゃ学校で部活動できないしというようなことでね。なかなか難しいですよ。

(委員) 中文連の会長しています。その中分連の吹奏楽の顧問の話を聞いております。やはり、その木管とか金管とかある程度持ち運びできるものは、家に持ち帰って週末やることができる。パーカッション、ドラムとかティンパニーとかやっぱそれについては難しい。で、もし可能であれば、例えばフローラさがえの一角に、その中古のドラムとかティンパニーとかもあれば置かせていただいて、そこは時間設定しながらですけど、そういった形で出来ればすごく助かりますという意見があったと思います。その中古の品というのがあるのどうか、または、そのフローラさがえの一室を借りることができるのかどうか。

(教育長) 場所とね、楽器そのもの、つまり、いつも使っているもの運ぶのは難しいので、土曜日の活動はそこにある楽器使ってみたいなんでしょうけどね。吹奏楽、本当に難しいと思います。吹奏楽部自体も、それぞれの学校だと少なくなっているんで、ぜひ一緒にあって、大人数で吹奏楽の楽しさを味わってほしいなって思いますけども。その辺は、今後とも本当に考えていかなきゃならないかなと思いますね。

(委員) 中学校で、いわゆる中部小なんかも全国大会が出ているわけでしょうね。マーチングね。ああいう人たちが中学校に行くと進む割合って、どのぐらいの割合ですか。

(委員) 一部です。そこでそのまま続けたいという子は確かにいますけども。全員は来ないですが、本校の規模で今年が最後の大編成。来年からは小編成になります。1年生がまた大量に入れば別なのですが、現時点の1・2年生だけの人数だと、あと1年生を何人入れないと大編成にならないと顧問は頭を抱えています。大編成って25人を超えてですね。

(教育長) 他に、いかがでしょうかスポーツ協会。

(委員) まだスポーツ協会の方も、いろんな、他のこともあってなかなかその事務局の方

を呼んで、こう話をしてもらおうということで、なかなか日程が取れなくて。会長も変わったばかりなので。今考えているところで、私たちとしてできるのは、競技団体の方は全部加盟していますので、その、この受け皿には、色んな地域クラブが入っていますが、競技団体として集めて、こういった趣旨を事務局とか全体でスポーツ協会として何かしなくちゃいけないかということは、それはやっぱりする必要はあるなというふうに考えております。令和7年の秋からということなので、あまり時間がないわけですが、色々と今お話をお聞きしてですね。やっぱり理事会を開いて、日程をとって、ただ競技団体の会長さんたちが集まるのは、年一回の総会だけなのです。やはり、臨時的な総会を召集する必要があると、私としては今考えていますが。そういったことを会長と事務局に伝えてですね。スポーツ協会としても、早急に対応していく必要となっていることを感じております。

（教育長）前向きに対応いただいて、本当にありがとうございます。委員さん、スポーツ推進としては、どんな状況でしょうか。

（委員）私たちは生涯スポーツという枠の中で進めておりまして、これはアンケートを見させていただいたときに、やっぱりそういう傾向が非常に嬉しいなと思ったところがあります。見る方によって違うと思いますが、そういう立場を考えると。スポーツを楽しみながら日曜日を休みと休みってということもよく考えながら、本格的なスポーツはやっぱりそのクラブに任してというようなことで。アンケートの中で、さまざまなことが書いてありましたが、保護者の方々に、一番とその痛烈に感じたのがこういうその検討委員会で検討した結果、部活動がもとに戻らないならば、なぜそのさっき委員がいわれたように、スポーツ競技団体に、なぜそういう手をかけないのだろうということがアンケートに出ていたのですね。で、その方々に協力をさせていただければ、全てのスポーツはクラブの中で、できるのではなかろうかということと、それから平日は先生にやっていただいて、休日につきましては、そういうクラブの方々に任せたらどうだろうっていうのは、アンケートの結果にのっていましたが、こういう考え方のもとになぜというようなことも踏まえまして、やっぱり身近な若い人が出て来ているような気がします。そういうことに対して、競技団体にも積極的に集まっていただくっていうよりも、こちらの方から投げかけてどうかその意見を得て、そのクラブの方に手伝ってくださいというような意思表示を積極的にすべきだと思ったところです。以上です。

（教育長）ありがとうございました。事務局いかがですか。

（事務局）いろいろ、出てきた中ですけど、例えばスポーツ推進員だと、特定の競技種目ではなくて、生涯スポーツなどの様々なレクリエーション的な競技がありますよね。今だと話題のモルックであるとか、そういった昔ニュースポーツと言われたカローリングだとか、そういったものをこう定期的に行う教室みたいなものを、クラブの活動とはまた別の形でスポーツ推進員が主になってやってみるとかそういった考えなんかは、どうですか。

（委員）今、出前教室という形で様々な依頼されています。現実的に、それはほとんどがモルックです。同時に東部地区の公民館の方も、学童を中心にしたグランドゴルフも教室の中に入れてあります。そこにスポーツ推進委員という形の中で、依頼が来ています。あとはその話の仕方の中の手話のサークルの方々から、もう一回終わったのですが、また再度お願いしますというようなことを聞きまして。そういう中で実際すると歓声がすごいですね。失敗しても。これはスポーツを推進できるその限界なのかなと思うので、私たちはやっている。依頼されている。出前教室っていうものを、積極的にやっていこうというような形の中で、今進めているところです。ただ、それに対してスポーツ推進委員が部活の出

身が様々、全てエントリーされている中でいますけども、その中で協会の会長だったりする方もいますが、そしてテニスの方は、明新館の方に指導者やっているとこともあったりしまして。動き方が様々ですけど、結局的にはみんながどんな形でスポーツを楽しめるのだろうかということはあるものですから、その生涯ですから。同じスポーツを多年代にわたって一緒にできるというようなことを考えれば、私たちがその中で動けるっていうようなことが大事なことですから、それをモットーにしてやっていますところ。ただ、部活に関しては、様々なそのスポーツ協会の中に所属している競技団体と関係している人たちは非常にいます。実際にその方については、まだ私も野球のほうでやっておりますけども、その方々も私も踏まえた中で、現実的に競技団体と直接話をできるというようなことは、なかなかやってないってところはあります。

(教育長) ありがとうございます。それでは、この会には各団体のその会長さんや副会長さん、本部長さんがいらっしゃるんで、事務局の方からそれぞれこういったところでどうでしょうかとか、または事務局の方に今度こういう会があるので、是非そこで説明してほしいとかっていったことなどをお寄せいただいたり、こちらからアプローチさせていただいたりってところで、中学生が休みの日に活動できる場をなるべくたくさんみんなで作っていきなと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは時間もだいぶあれですけども、その他ということで、何か皆様からございませんでしょうか？

(委員) 先ほど事例発表者の方から課題として、施設使用料の話だったのですけれども、今、例えば社会教育団体が学校の体育館とか公民館の体育館などを借りる場合、どのくらいの使用料がかかるのですか。

(事例発表者) 社会教育団体の使用料は無料ですけども、暖房料とか照明代は別っていうことになっている。

(委員) 照明代の方をできれば免除していただけると嬉しいと思っております。実際にうちのもクラブの方を立ち上げて、来月から10月から動き出したいと思っておりますが、活動前に規約等を相談しないとイケません。もしできれば早めにこうしていただいで、減免を受けるようになるといいと思ひますので、ご検討いただけないでしょうか。

(委員) 今のその減免対象になるのは、市のほうに社会教育団体として登録している団体だけになりますよね。だから、例えば中学校とかクラブで動き出している。ここに出ている例でいくと、この市内中学校野球部顧問と市野球連盟のこの団体なんかは社会教育団体に、まだ登録されていないわけ。こういう団体が子どもたちの受け皿として活動したいという時に、有料になってしまうと思ひます。そうやって動き出している団体も減免対象にならないと厳しいのかなという気もします。そこはどうにかならないかなということも合わせて検討いただけたら。

(委員) 当然検討していただかないとね。大変だと思ひます新たに発足するわけですから。私のところの総合型地域スポーツクラブってもっとひどいですよ。使用料は全然減免されていません。当然電気料も。ところが、文化センターは社会教育団体として認定されていて無料なのです。会議は文化センターでやります。お金かかるから。条例はどうなっているかということの関連もありますけどね。

(教育長) 事務局。その減免についてよろしく。

(事例紹介者) 関連してなんですけども、正直な話、スポーツクラブさんとスポーツ推進委員さんとか、スポ少とか、あとスポーツ協会さんとか各競技団体があって、それで受けられるかということで相談されるということなんですけども、そこでネックになったのは、その各団体の規約がありますよね。各スポーツのその競技ごとにやっぱり団体作っているわけですから、それで受け入れられるかどうかというのは、事業の内容の一つに入れれば、それで受け入れられて、その会費とか、そういう議論も出てきて、あと年一回の総会とか、保護者会は年一回総会で、会計の承認を得ているという団体になっていると思っています。そのような、受け入れ団体独自のその規約なりを作らなきゃいけないと思いました。ですから、それを含めた形で、基本的には自分たち競技するための会計であり、会則であり、その、役員構成だとは思いますが、受け入れた中での変更っていうのはしないと、組織的にはおかしくなるのではないかと思います。

(委員) 団体規約などは、部活動を想定して規約を作っていないわけですから、もちろんどの団体もないはず。そうした場合には、競技団体独自に新たな特別な枠として、それを設置しなければ、いわゆる責任問題が発生した時に大変です。

(事例発表者) それで、寒河江市一本でそれを設置できるかどうか。で事務員もいるのかとか。

(委員) そこまで言ったら、それはもう全部個人になりますからね。法律化すれば会として全体ですけども。

(教育長) 検討しますが、基本的にはその各種団体で規約を改正していただいて、その中学生の活動に対応していくというようなところを作っていただくということが基本ではあると思います。減免については、減免しないと保護者の方の負担が会費等で多くなるので、なんとかそこらへんは対応を早めに、それぞれ早めに始められるところは始めたいということもあると思いますので、対応を検討していきたいと思います。それではすいません。時間伸びてしまって申し訳ありません。長時間に渡ってご協議ありがとうございました。では、進行事務局の方に戻したいと思います。

(事務局) ありがとうございました。では、その他に行きます。資料の5のところを説明しませんでしたけども、今スポーツ庁の方から概算要求が8月の下旬に出されておりました。そこから抜粋したものです。これの左側の部分が、今回の部活の改革に関わることで、これについて細かくは説明しませんが、こういったメニューが考えられていて、一応お金のところは国が1/3、県が2/3という形になっております。事務連絡3点ございます。1点目、次第のところを見ていただきますと第4回の検討委員会を12月5日の火曜日に予定しておりましたが、12月13日水曜日に変更させていただきたいと思います。理由としましては、年度当初の計画を立てたために議会の日程が正確に把握できておりませんでした。

今回議会の日程と重なりが出てしまったため、会議日程このような形に変更させていただきたいと思います。お手数をおかけしますが、よろしく願いいたします。2点目です。次回の会議は可能であれば、第1回の時に依頼をさせていただいた各団体の中での受け皿となる団体の検討状況、聞き取り状況の報告をお願いしたいと思います。一覧表の方をお渡ししましたので、その各団体がどのように話されているのか、できれば具体的に、報告をお願いしたいと思います。ご協力よろしく願いいたします。3点目です。今回の会議の謝金についても手続きが済み次第、振り込みをさせていただきますので、その際にはまた連絡をさせていただきますので、よろしく願いいたします。連絡は以上となります。皆さんの中で何かお持ちの方いらっしゃいますか。

(委員) 2 番目について、新たに書類で提出しますか。

(事務局) お配りしたもののところに印をつけていただいて構いません。また、シートのところに沿って何か 1 枚作っていただいても可能です。5 月 31 日の時に、エクセルで作ったスポ少だったらスポ少の各団名を、総合型だったら総合型の各教室名を書いたと思いますので、そこで中学生の受け入れが可能かどうかということについて、検討していただければと思います。他にお待ちの方いらっしゃいますか。では、長時間にわたって協議どうもありがとうございました。それでは以上をもちまして、第 3 回の寒河江市中学校部活動改革検討委員会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。